

村械科闘争委員会のこの面の闘争報告と  
それの若干の総括、これから我々の方針  
を述べたいと思ひます。

理斗委の一定程度の衰退の中で、林斗委  
は独自の同盟登校、ア号館内の井上清打  
痕会、山猫スト(反安保-沖縄戦争)ブラ  
クシヨ活動を盛岡的に貫徹してきた。し  
かしながら、現在の状態は佐ト談米以後、  
テスト、実験、レポートに近づくから、  
日常性に埋没している。この様な事柄に対  
し再度は、ギリと自分に向ひ返す必要があ  
るのではないが、反戦母-佐ト談米にお  
いて明確な運動をなし得るか、たのはなぜ  
か?

それは、理斗委、林斗委という組織の向  
題よりも、もっと根本的な事柄の自分自身  
のつきつめがなからずからなないであら  
うか。今の社会には多くの労働者がいる。し  
かし、自分らの存在を、あまり認識し、自分  
ら自身の解放に向つて真に闘つてい  
る人、すなわち労働者階級としての自覚  
は、物事かしかりない。この事は我々学  
生にも云えると思ふ。目下には万人にも  
およぶ学生がいるが、多くの学生は自分の  
存在にあまりにも甘んじているのではな  
いだろうか。そしてこの事柄を論じているあ  
なたがた、又活動家にも含まれて、この事は  
否定できない。我々はこの前大論議の土に  
立ち、その限界性に対して勇敢に自分ら  
が  
いどみ、自分らの人間解放を真に受けが  
る学生のため、不断に闘争を遂  
げなしてゆくべきであらう。以上  
の人間の具体性の確立、人間解放の實現の  
ため、我々は、ギリギリまで、反人民的な資  
本主義、帝国主義打倒のため、ブルジョア  
ジーの反動性を暴露し、粉砕してゆく闘  
争を組んで来た。

自分らの存在に規定されてくる所の闘争に  
おいて、我々は吉田体制の犯罪性、反動性

をあげ出し、粉砕してゆく闘争を場所的  
に行なつて来たし、政府及び文部省に対す  
る我々の教育政策に対しても、具体的には  
産学協同政策、大学立憲に対しても、多く  
の学生に問題提起を、大衆的な闘争を貫  
徹して来たと思ひます。

一、まずまず帝国主義の姿を現し、印  
度の核基地付自由使用(インド)、安保自動  
延長を行つたことによつて、一き、に日本  
の帝国主義的再編成化をもつて、日本の  
資本主義化、東南アジアの経済的、軍事的侵  
略を公然と論議しようとして、日本帝  
国主義者に対して我々は、成る労働者、感  
づかぬ、成る市民、成る高橋生と連帯して  
庶人民的運動である反安保、沖縄戦争を成  
していかねばならない。すなわち我々のこ  
れからの方針、成る同様な、自分らの存  
在の自覚、成る自己に規定されてくる所のその  
特殊性に心をこめて、場所的にいかになん  
な闘争をくりかへし、同時に在る階級の再編  
成化のため、真の人民の前衛組織の創出を  
「庶人民的運動」を具体的に「おこなつて行  
く」とを直して、自分らの階級的自覚、自  
己からの人間解放を「得る」とが出来るのでは  
ないだろうか。党内主義=逆剣、万年来  
成論をきけば、左翼階級から我々はみだし  
「階級闘争」本論の闘争論を批判し、一  
方、ブルジョア、ブルジョア活動の根本的  
な運動をつつてゆく、自分らが闘争の主体  
となること、今、要求されてくる。

◎屋敷の地着は、水本主理員の自主担任  
に参加しよう!